

第 43 回定時株主総会質疑応答

質問 1 2020 年 3 月期は業績予想を大幅に上回った。大きなイベントであれば、準備もあるので見通せる部分も多いと思う。今回の業績について、大幅なズレの要因は何か。

回答 1 業績が当初予想より大幅に上回った要因は大きく 3 つの要素があります。

1. 予想していなかった大型案件の受注が期中に決まった。
2. ラグビーワールドカップ関連についても、期中に受注が決まった。
3. 茨城国体競技会場の受注が過去最高の結果となった。

(回答者：田代専務)

質問 2 競合他社はどのような会社になるのか教えてください。

回答 2 事業全体に対する競合企業というより、イベントの種類や規模ごとに競合する会社が変わります。規模の大きなスポーツイベントを例にすると、元請であれば大手広告代理店が競合することになり、会場の設営・管理業務であれば仮設に強みを発揮する企業が競合となります。各拠点においては、地域におけるイベント会社が競合となります。

(回答者：田代専務)

質問 3 採用状況について教えてください。

回答 3 2020 年 4 月の新卒採用は 21 名です。2021 年 4 月採用については、現在、会社説明会ができない状況にあります。今後の状況を見てオンライン説明会を実施し採用を進めていきます。現時点においては先が読めない状況にあるため、状況に合わせ適切な対応を進めて行いたいと考えています。

(回答者：堀貫取締役)

質問 4 現在の状況はまさに想定外の状況といえます。こういう状況における成長戦略をどこに見出すか教えてください。

回答 4 スポーツ分野はこれからも深掘りできる要素があると考えています。2016 年に政府から発表された日本再興戦略の中でも、スポーツの成長産業化について 2025 年に 15 兆円の市場規模まで厚みを出していくといった方針があります。この流れにうまく絡み合った形で進められればと考えています。オリパラは延期となりましたが、前期の活動などから、これまでに交流の無かった組織、団体、個人とつながりができていますので、現時点においても「どういったレガシー自分たちに残そうか」という話し合いも行っています。当社としても実績を残す機会をいただき、その上で、新たなつながりとコミュニケーションが取れたことは、今後の財産として活用して行けると考えています。

(回答者：稲葉社長)

質問 5 長期保有の個人株主として、今期の増配について嬉しく思います。株主は、企業の業績が向上し、市場で評価され、結果として株価が上がることを期待しています。中でも長期保有の株主は、時間的なリスクを取っていますので、中間配当等の配当機会を増やしていただきたい。

回答 5 配当について、四半期配当もあることも含め認識はしています。しかしながら、当社は1年を通して業績の波のある会社であり、中間あるいは四半期配当が適切であるかどうか検証しきれていない状況にあります。配当については課題であることを十分に認識していますので、引き続き検討して行きます。

(回答者：堀貫取締役)

質問 6 株主優待廃止について、残念という思いはあったが優待の原資を配当に回すという対応は高く評価しています。一方、優待制度については、安定的な個人株主を増やす戦略であったと思います。可能であれば、株主優待の復活を検討していただきたい。

回答 6 株主優待は、個人株主様の増加・安定を目的に実施してきましたが、検証・検討を行った結果、必ずしも期待通りの結果が認められませんでした。社会的にもファンドや法人株主については、優待をうまく活用できておらず、むしろ配当に回していただきたいとのご要望もありました。こういった状況を勘案し、一旦廃止として、配当に回すこととしました。

(回答者：堀貫取締役)

長期保有の方々のモチベーションの一つとして、「おもしろそうな会社」という認識の持たれる企業を目指し、当社に関連するイベントのチケットを優待として用意してきました。しかしながら、地域的な公平性に欠くといったご意見もあり、それに対する有効な対応策を打ち出せなかったといった経緯があり、今回配当として還元することをきめました。優待については引き続き検討していきたいと考えています。

(回答者：稲葉社長)

質問 7 コロナの流れをもってスポーツ界の発展は厳しい状況と推測されるが、新たな戦略としてどのようなビジョンを考えているかを教えてください。

回答 7 スポーツ界も決して楽観視はしていない状況です。これまでのような来場者対応やチケット収入に頼れないことは認識しています。JリーグやVリーグなどは、新しい観戦スタイルを検討されています。当社としても出遅れることなく対応していきたいと考えていますが、何が正解であるかはまだわからない状況にあります。海外では既にいくつか進められている施策もあるようですが、そのような状況なども含め情報を仕入れ、クライアント様・競技団体様にお役立ちできる形で検討していきたいと考えています。

(回答者：鎌田常務)

質問 8 前回の株主総会でもお願いしたが、当社は認知度が低く株の流動性に乏しい。また、個人株主には最低投資金額を適時見直していただきたいとのお願いをしました。4月に株式分割していただき、売買高が増えているので、良い兆しが出てきたと思います。今後も個人株主が購入しやすいように、株価の状況に応じて株式分割をしていただきたい。

回答 8 認知度についてはここ 2~3 年上がってきているといった実感があります。企業としてのパフォーマンス以外でも、昨年の世界陸上での男子 4×100m リレーにおいて、当社社員の白石黄良々が第 2 走者としてメダルを獲ることができました。それ以降、テレビでも取り上げられる機会が増え、当社の認知度向上につながっていると感じています。株式分割等については、今後も継続的に検討していきます。

(回答者：稲葉社長)

以上